

運動会に対する児童の意識に関する一考察

- 小学校第5・6学年の児童を対象として -

紀村 修一^{*1}・戸川 歩^{*2}・佐伯 英人

A Study on Children's Consciousness toward A Sports Day 'Undokai':

A case of the 5th and 6th grade elementary school children

KIMURA Shuichi^{*1}, TOGAWA Ayumi^{*2}, SAIKI Hideto

(Received August 3, 2020)

キーワード：運動会、児童、意識、第5学年、第6学年

はじめに

文部科学省（2008）の「小学校学習指導要領解説 特別活動編」では、「第4節 学校行事」の「(3) 健康安全・体育的行事」において「健康安全・体育的行事には、（中略）運動会や球技大会等の体育的な行事などが考えられる。」（p. 92）と示されている。また、文部科学省（2018）の「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」でも、「第4節 学校行事」の「(3) 健康安全・体育的行事」において「健康安全・体育的行事には、（中略）運動会や球技大会等の体育的な行事などが考えられる。」（p. 123）と示されており、同一の記述がみられる。つまり、小学校の運動会は、特別活動の学校行事の1つに位置付けられて実施されているといえる。

小学校の運動会に対する児童の意識を調査した研究として藤井・森（2017）、玉井・久々江（1995）がある。

藤井・森（2017）において「これまでの学校行事に関する研究としては（中略）指導者である教師の取り組みや評価のあり方に関わるものが多い。さらに、学習者である子どもの意識調査においては（中略）小学校を対象とした調査は少ないと言える。」（p. 146）と述べられている。現在（2020年8月3日）、筆者らが運動会についてWebサイトを検索しても、小学校の運動会に対する児童の意識を調査し、議論した事例は少なく、藤井・森（2017）と同一の見解となった。

藤井・森（2017）において「質問紙の項目においても不十分な点がみられた。質問紙の項目の洗練を図ると共に、自由記述による調査も充実させる必要があると言える。それによって、より詳細な分析が可能になると考えられる。」（p. 152）と述べられている。

藤井・森（2017）では、運動会の実施日は示されていないが、調査時については「調査時期は2015年10月であった。」（p. 147）と示されている。玉井・久々江（1995）では、運動会の実施日、調査時がともに示されていない。そのため、明言することはできないが、質問項目の内容、分析の結果をもとに推察すると、両者ともに運動会終了後の1時点の調査と思われる。

上記のことは、小学校の運動会に対する児童の意識については知見が十分に得られていない状況であり、より精緻に調査し、分析する必要があることを示唆している。そこで、本研究では、運動会の練習を開始する前時～運動会の終了時まで複数回、調査を行うことにした。また、藤井・森（2017）、玉井・久々江（1995）を参考にして質問紙を作成し、統計的な手法を用いて、より精緻に分析するようにした。本研究の目的は、運動会に対する児童の意識、また、その要因（背景）に関するより詳細な知見を得ることである。

*1 防府市立華城小学校（前 山口大学教育学部附属山口小学校） *2 福山市立伊勢丘小学校

1. 運動会と練習

山口大学教育学部附属山口小学校において2019年度の運動会が開催されたのは2019年5月18日であった(表1)。この運動会は、天候の関係により、短縮プログラムで実施された。そのため、運動会の開催時刻は8:40、終了時刻は12:20になり、時間数は240分であった。プログラムの1つであった全校競技「大玉送り」と全校ダンスは、この運動会では行われなかった。なお、全校競技「大玉送り」については7月17日に「ミニ運動会」と称して実施した。

2019年度の山口小学校の運動会は、各学年の1組が白組、2組が青組になり、異学年の集団(縦割りのグループ)を編成し、白組と青組のチーム対抗戦で行った。白組の児童数は201人、青組の児童数は200人であった。本研究では、研究対象の学年を高学年(第5学年、第6学年)と設定したため、第5学年、第6学年について述べる。児童数は5年1組が33人、5年2組が32人、6年1組が33人、6年2組が33人であった。本稿では以下、5年1組をA組、5年2組をB組、6年1組をC組、6年2組をD組と称する。

運動会を実施するあたり、全校練習、学年別練習、白青対抗リレーの練習を実施している。全校練習は全学年(第1学年～第6学年)で実施する練習である。学年別練習は各学年で実施する場合、また、低学年、中学年、高学年のように2つの学年が合同で実施する場合がある。白青対抗リレーは第1学年～第3学年の児童の選手、第4学年～第6学年の児童の選手が出場し、それぞれでリレーをする競技種目であるため、全校練習、学年別練習とは別の時間に練習をしている。競技種目と練習の日時等について以下に詳述する。

運動会において、高学年(第5学年と第6学年)の児童が参加する競技種目には、準備体操、短距離走、学年リレー、白青対抗リレー、騎馬戦、全校競技「大玉送り」、全校ダンス、応援合戦がある。その中で、全校練習を行う競技種目は、準備体操、全校競技「大玉送り」、全校ダンス、応援合戦である。全校練習は5月8日～5月17日の2週間に12単位時間(45分×12回)実施した。全校練習は45分の場合は1校時、90分の場合は1・2校時に実施した(表1)。学年別練習を行う競技種目は、短距離走、学年リレー、騎馬戦である。学年別練習は、全校練習の後に実施した(表1)。白青対抗リレーの練習は昼休みの時間に実施した。第4学年～第6学年の白青対抗リレーの練習をした日は5月9日、5月13日、5月16日であり、練習時間は20分間(13:00～13:20)であった。ちなみに、第1学年～第3学年の白青対抗リレーの練習をした日は5月10日、5月14日、5月16日であった。

表1 全校練習(内容を含む)、高学年の学年別練習、運動会を実施した月日と時間数

月日(曜日)	全校練習「内容」	時間数	学年別練習	時間数
5月8日(水)	全校練習1「開会式、準備体操、入退場、応援合戦の練習」	90分	-	-
5月9日(木)	全校練習2「全校ダンスの練習」	45分	高学年	45分
5月10日(金)	全校練習3「全校競技『大玉送り』の練習」	45分	5学年	45分
			6学年	45分
5月13日(月)	全校練習4「開会式(全体の流れ)、入退場の練習」	90分	5学年	45分
			6学年	45分
5月14日(火)	全校練習5「全校競技『大玉送り』の練習」	45分	高学年	45分
5月15日(水)	全校練習6「閉会式(全体の流れ)、入退場の練習」	45分	5学年	45分
5月16日(木)	全校練習7「入場、開会式、入退場、閉会式、応援合戦の練習」	90分	6学年	45分
5月17日(金)	全校練習8「入場、開会式、入退場、閉会式、全校ダンスの練習」	90分	高学年	45分
5月18日(土)	運動会(短縮プログラムで実施)			240分

- : なし

前述したように、運動会は、白組と青組のチーム対抗戦で行っている。競技種目と得点等について以下に詳述する。

競技種目ごとに、その勝敗や順位によって得られる得点が決まっている。得られた得点の和(合計得点)の大小により、チーム(白組、青組)の勝ち負けが決まる。得点は、個人種目である短距離走では1位に4点、2位に3点、3位に2点、4位に1点、5位に1点が与えられる。団体種目である学年リレー、騎

馬戦では勝ったチームに30点、負けたチームに10点、引き分けの場合はどちらのチームにも20点が与えられ、また、白青対抗リレー、全校競技「大玉送り」、応援合戦においては、勝ったチームに50点、負けたチームに20点、引き分けの場合はどちらのチームにも30点が与えられる。準備体操、全校ダンスには勝ち負けがなく、これらは得点と無関係の競技種目である。

2. 調査方法

質問紙法による調査を4時点（調査時①，調査時②，調査時③，調査時④）で実施した。調査時①は5月8日の全校練習1の開始前、調査時②は5月10日の学年別練習終了後、調査時③は5月17日の学年別練習終了後、調査時④は5月18日の運動会終了後である。調査を行った場所は各学級（A組，B組，C組，D組）の教室である。調査時を表2に示す。

表2 調査時（実施した月日と実施時点）

調査時	月日（曜日）	実施時点
①	5月8日（水）	全校練習1の開始前
②	5月10日（金）	学年別練習終了後
③	5月17日（金）	学年別練習終了後
④	5月18日（土）	運動会終了後

運動会に対する児童の意識、また、その要因（背景）を明らかにする目的で質問紙を作成した。調査時①～調査時④で用いた質問紙では「問い」を設定し、「あなたの運動会に対する気持ちを教えてください。それぞれの質問こうもくの当てはまる番号に1つずつ○をつけてください。また、記述するわく内にそのように回答した理由を書いてください。」という教示を行った。質問項目は、質問項目⑦「好き」、質問項目④「楽しい」、質問項目⑧「おもしろい」とした。選択技法による調査では5件法（5.とても当てはまる，4.だいたい当てはまる，3.どちらともいえない，2.あまり当てはまらない，1.まったく当てはまらない）で回答を求め、また、記述法による調査では記述欄に自由記述で回答を求めた。質問項目⑦「好き」の記述欄には「※『好き』については可能な限り、回答してください。」と付記した。なお、調査時①～調査時④で用いた質問紙では「問い」の他、学年、学級、出席番号について回答を求めた。

3. 分析方法

3-1 選択技法による調査

選択技法による調査については質問紙で使用した5件法の「5.とても当てはまる」を5点、「4.だいたい当てはまる」を4点、「3.どちらともいえない」を3点、「2.あまり当てはまらない」を2点、「1.まったく当てはまらない」を1点とし、調査時①の各学級（A組，B組，C組，D組）の点数を用いて因子分析を行った。因子分析には統計解析プログラムSPSSを使用した。因子抽出法には主因子法を用い、固有値が1以上であり、固有値の落ち込みが見られるところまでを抽出の基準とした。この基準を満たす因子を見出して因子構造について検討し、尺度とした。さらに、Cronbachの α 係数を算出して尺度の内的整合性を検討した。

前述した因子分析の結果、見出された尺度を用いて以下の分析を行った。各調査時（調査時①，調査時②，調査時③，調査時④）において学級ごと（A組，B組，C組，D組）に、尺度の質問項目の和を質問項目の数で割り、平均値と標準偏差を算出し（平均値：max=5，min=1）、天井効果と床効果の有無を確認した。

3-2 記述法による調査

記述法による調査については、3つの質問項目（質問項目⑦「好き」、質問項目④「楽しい」、質問項目⑧「おもしろい」）の記述欄への記述が一定量あり、分析が可能な状況であれば、すべてを対象として分析をするが、そうでない場合は、質問項目⑦「好き」の記述のみを分析の対象として分析することにした。記述の結果をみたところ、質問項目④「楽しい」と質問項目⑧「おもしろい」の記述量に調査時による偏りがみられたため、質問項目⑦「好き」の記述欄の記述のみを分析の対象とすることにした。

調査時①～調査時④の質問項目⑦「好き」の記述の中で、「学級」と「クラス」のように同じことを示し

4-2 記述法による調査

4-2-1 記述統計量と出現回数の多い語

記述法による調査について分析した結果を以下に示す。

記述統計量（総抽出語数，異なり語数，文数，段落数）を表5に示す。また、出現回数の多い語（出現回数が5回以上の語）を表6に示す。表6をみると、調査時①では、「好き」が29語、「楽しい」が22語、「協力」が19語、「運動」が16語、「競技」が13語の順で多く使用されていた。調査時②では「好き」が26語、「協力」が24語、「楽しい」が19語、「競技」が12語、「運動」が9語の順であった。調査時③では「楽しい」が29語、「好き」が18語、「競技」が15語、「協力」が14語、「運動」が8語の順であった。調査時④では「楽しい」が30語、「好き」が23語、「競技」が17語、「協力」が15語、「運動」が13語の順であった。調査時①～調査時④で出現回数が多い語は「好き」、「楽しい」、「協力」、「運動」、「競技」の5つといえる。本稿では、この5つの語を頻出語とする。

表5 記述統計量

	調査時①	調査時②	調査時③	調査時④
総抽出語数（使用）	1316 (445)	1039 (348)	947 (310)	973 (318)
異なり語数（使用）	246 (154)	185 (124)	166 (111)	157 (102)
文のケース数	129	126	126	124
段落のケース数	128	125	126	124

表6 出現回数の多い語（出現回数が5回以上の語）

調査時①		調査時②		調査時③		調査時④	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
好き	29	好き	26	楽しい	29	楽しい	30
楽しい	22	協力	24	好き	18	好き	23
協力	19	楽しい	19	競技	15	競技	17
運動	16	競技	12	協力	14	協力	15
競技	13	運動	9	運動	8	運動	13
勝つ	10	頑張る	6	色々	6	負ける	9
自分	8	体	6	練習	6	勝つ	8
運動会	7	練習	6	体	5	面白い	8
色々	6	自分	5	疲れる	5	色々	7
頑張る	5	体育	5	-	-	頑張る	5
嬉しい	5	動かす	5	-	-	-	-
係	5	面白い	5	-	-	-	-
最後	5	-	-	-	-	-	-

- : なし

4-2-2 共起ネットワーク

共起ネットワーク分析の結果を図1～図4に示す。各図では、強い共起関係ほど濃い線で示され、出現回数の多い抽出語は大きな円で示されている。図1～図4のネットワークの状態をみると、調査時①は7つのグループ、調査時②は6つのグループ、調査時③は5つのグループ、調査時④は5つのグループから構成されていることが分かる。

調査時①～調査時④の頻出語は「好き」、「楽しい」、「協力」、「運動」、「競技」の5つであった（表6）。前述したように、この5つの頻出語に着目し、頻出語と他の語のネットワークの様態を見取り、文脈でどのように用いられるのかを確認した。

運動会に対する意識（「好き」という気持ち）について意識の要因（背景）を見取り、ポジティブなものには○、ネガティブなものには△、両者が混在しているものには□を付けた。文脈にニュアンスの違いがみ

られた場合、それぞれ示すようにした。このとき、類似の文脈が多かったものを先に示した。整理した結果を表7に示す。なお、文中の係数はJaccard係数のことである。

調査時①について以下に述べる(図1)。

頻出語「好き」は2つの語(頻出語「運動」,「動かす」と繋がっていた。頻出語「好き」と頻出語「運動」の係数は0.34であり、○「運動が好きだから」、△「運動はあまり好きではないから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「動かす」の係数は0.07であり、○「体を動かすのが好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「楽しい」は1つの語(「応援」と繋がっていた。頻出語「楽しい」と「応援」の係数は0.10であり、○「みんなに応援されたり自分が応援したりするのが楽しいから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「協力」は2つの語(頻出語「頑張れる」,「人」と繋がっていた。頻出語「協力」と「頑張れる」の係数は0.15であり、○「みんなと協力をして頑張れるから」といった文脈で用いられていた。頻出語「協力」と「人」の係数は0.10であり、○「色々な人と協力して楽しいから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「運動」は3つの語(頻出語「好き」,「苦手」,「自分」と繋がっていた。前述したとおり、頻出語「運動」と頻出語「好き」の係数は0.34であり、○「運動が好きだから」、△「運動はあまり好きではないから」といった文脈で用いられていた。頻出語「運動」と「苦手」の係数は0.19であり、△「運動をするのが苦手だから」といった文脈で用いられていた。頻出語「運動」と「自分」の係数は0.14であり、○「自分の運動がどれだけできているのか試されるから」、○「自分は運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「競技」は2つの語(「色々」,「見れる」と繋がっていた。頻出語「競技」と「色々」の係数は0.27であり、○「色々な競技を見れるから」、○「色々な競技ができるから」、○「色々な競技があるから」といった文脈で用いられていた。頻出語「競技」と「見れる」の係数は0.23であり、○「色々な競技を見れるから」、○「他の学年の競技などを見れるから」といった文脈で用いられていた。

調査時②について以下に述べる(図2)。

頻出語「好き」は4つの語(「動かす」,頻出語「運動」,「体育」,「疲れる」と繋がっていた。頻出語「好き」と「動かす」の係数は0.15であり、○「体を動かすのが好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と頻出語「運動」の係数は0.13であり、○「運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「体育」の係数は0.11であり、○「体育が好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「疲れる」の係数は0.04であり、□「好きだが疲れるから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「楽しい」は2つの語(頻出語「協力」,「勝負」と繋がっていた。頻出語「楽しい」と頻出語「協力」の係数は0.50であり、○「みんなと協力して楽しいから」、○「勝負にこだわらず、協力する楽しさが学べるから」、○「勝ったら楽しいから」、○「競技も応援も楽しいから」といった文脈で用いられていた。頻出語「楽しい」と「勝負」の係数は0.50であり、○「勝負にこだわらず、協力する楽しさが学べるから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「協力」は2つの語(頻出語「競技」,頻出語「楽しい」と繋がっていた。頻出語「協力」と頻出語「競技」の係数は0.06であり、○「みんなと協力して競技をするから」といった文脈で用いられていた。前述したとおり、頻出語「協力」と頻出語「楽しい」の係数は0.05であり、○「みんなと協力して楽しいから」、○「勝負にこだわらず、協力する楽しさが学べるから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「運動」は1つの語(頻出語「好き」と繋がっていた。前述したとおり、頻出語「好き」と頻出語「運動」の係数は0.13であり、○「運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「競技」は4つの語(「色々」,「応援」,頻出語「協力」,「面白い」と繋がっていた。頻出語「競技」と「色々」の係数は0.25であり、○「色々な競技があるから」、○「色々な競技ができるから」といった文脈で用いられていた。頻出語「競技」と「応援」の係数は0.07であり、○「競技も応援も楽しいから」といった文脈で用いられていた。前述したとおり、頻出語「競技」と頻出語「協力」の係数は0.06であり、○「みんなと協力して競技をするから」といった文脈で用いられていた。頻出語「競技」と「面白い」の係数は0.06であり、○「競技が面白いから」といった文脈で用いられていた。

調査時③について以下に述べる(図3)。

頻出語「好き」は4つの語（頻出語「運動」、「スポーツ」、「競い合う」、「運動会」）と繋がっていた。頻出語「好き」と頻出語「運動」の係数は0.18であり、○「運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「スポーツ」の係数は0.11であり、○「スポーツが好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「競い合う」の係数は0.05であり、○「競い合うのは好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「運動会」の係数は0.05であり、○「運動会で協力するのが好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「楽しい」は3つの語（頻出語「競技」、「応援」、「運動会」）と繋がっていた。頻出語「楽しい」と頻出語「競技」の係数は0.10であり、○「色々な競技があるから楽しい」、○「競技が楽しいから」といった文脈で用いられていた。頻出語「楽しい」と「応援」の係数は0.07であり、○「みんなを応援するのが楽しそうだから」、○「応援合戦で声を出すのが楽しいから」といった文脈で用いられていた。頻出語「楽しい」と「運動会」の係数は0.03であり、○「運動会が楽しいから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「協力」は1つの語（「運動会」）と繋がっていた。頻出語「協力」と「運動会」の係数は0.06であり、○「運動会で協力するのが好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「運動」は2つの語（頻出語「好き」、「青」）と繋がっていた。前述したとおり、頻出語「運動」と頻出語「好き」の係数は0.18であり、○「運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「運動」と「青」の係数は0.10であり、○「青と白、どちらが勝つかドキドキするし、運動が大好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「競技」は3つの語（「色々」、「面白い」、頻出語「楽しい」）と繋がっていた。頻出語「競技」と頻出語「色々」の係数は0.25であり、○「色々な競技があるから楽しい」、○「色々な競技があって面白い」、○「色々な競技ができるから」、○「色々な競技を見るのが好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「競技」と頻出語「面白い」の係数は0.12であり、○「色々な競技があって面白い」といった文脈で用いられていた。前述したとおり、頻出語「競技」と頻出語「楽しい」の係数は0.10であり、○「色々な競技があるから楽しい」、○「競技が楽しいから」といった文脈で用いられていた。

調査時④について以下に述べる（図4）。

頻出語「好き」は3つの語（頻出語「運動」、「勝つ」、「疲れる」）と繋がっていた。頻出語「好き」と頻出語「運動」の係数は0.29であり、○「運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「勝つ」の係数は0.11であり、○「青と白どちらが勝つかドキドキするし、運動するのが好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「好き」と「疲れる」の係数は0.04であり、□「好きだけど疲れるから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「楽しい」は1つの語（「勝つ」）と繋がっていた。頻出語「楽しい」と「勝つ」の係数は0.06であり、○「勝ったら楽しいから」、○「とても楽しいし勝ったから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「協力」は3つの語（「楽しめる」、「運動会」、「勝てる」）と繋がっていた。頻出語「協力」と「楽しめる」の係数は0.12であり、○「みんなで協力して、楽しめるから」、○「全校で協力して楽しい運動会にできたから」といった文脈で用いられていた。頻出語「協力」と「運動会」の係数は0.12であり、○「全校で協力して楽しい運動会にできたから」、○「運動会でみんなと協力するのが好きだから」といった文脈で用いられていた。頻出語「協力」と「勝てる」の係数は0.06であり、○「協力して勝てたから」、○「みんなで協力してみんなで勝ったから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「運動」は1つの語（頻出語「好き」）と繋がっていた。前述したとおり、頻出語「運動」と頻出語「好き」の係数は0.29であり、○「運動が好きだから」といった文脈で用いられていた。

頻出語「競技」は3つの語（「色々」、「応援」、「面白い」）と繋がっていた。頻出語「競技」と「色々」の係数は0.35であり、○「色々な競技があるから」、○「色々な競技を見れるから」、○「色々な競技ができるから」、○「色々な競技があって面白いから」といった文脈で用いられていた。頻出語「競技」と「応援」の係数は0.12であり、○「全学年の競技を応援できるから」といった文脈で用いられていた。頻出語「競技」と「面白い」の係数は0.09であり、○「色々な競技があって面白いから」、○「面白い競技があるから」といった文脈で用いられていた。

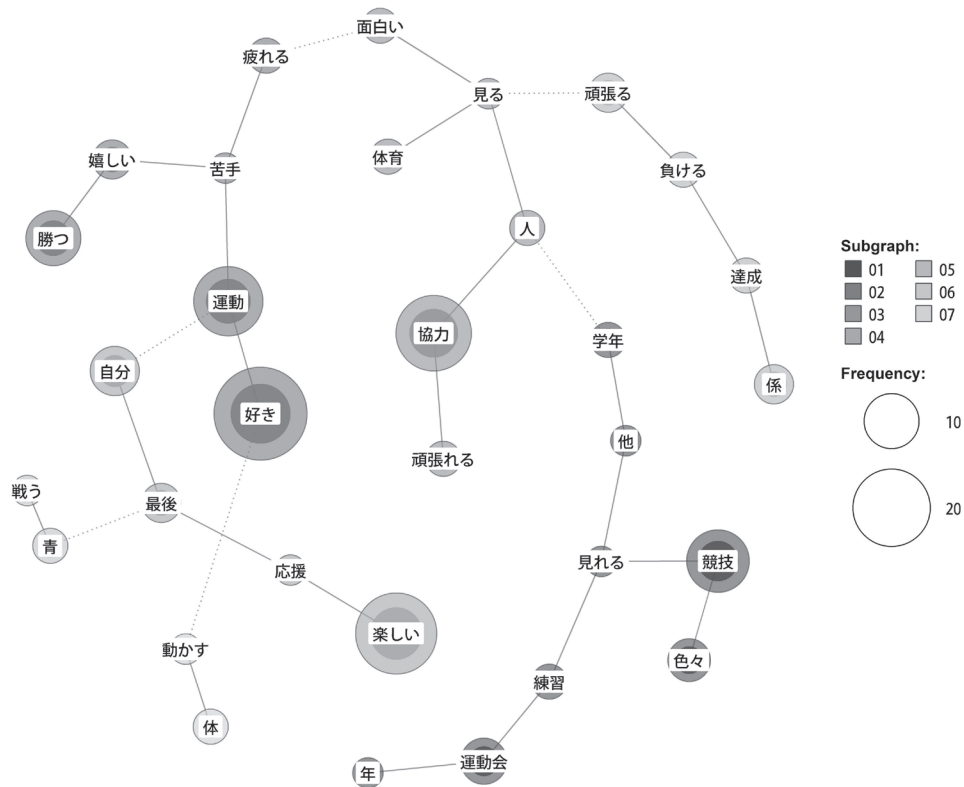


図1 調査時①の共起ネットワーク

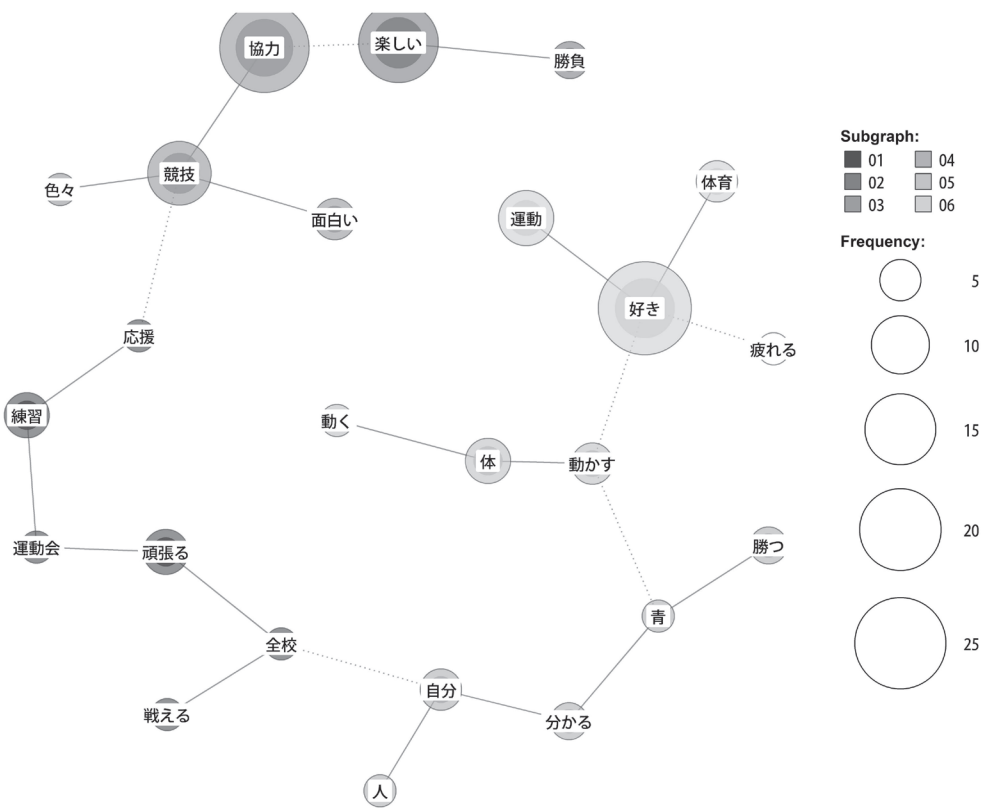


図2 調査時②の共起ネットワーク

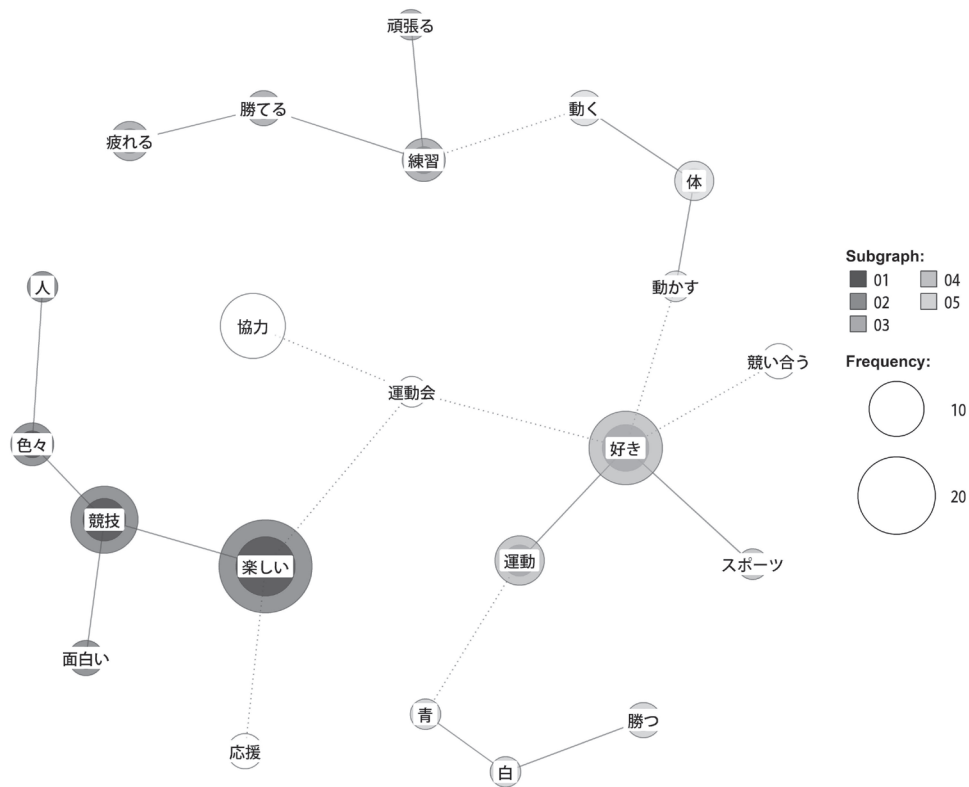


図3 調査時③の共起ネットワーク

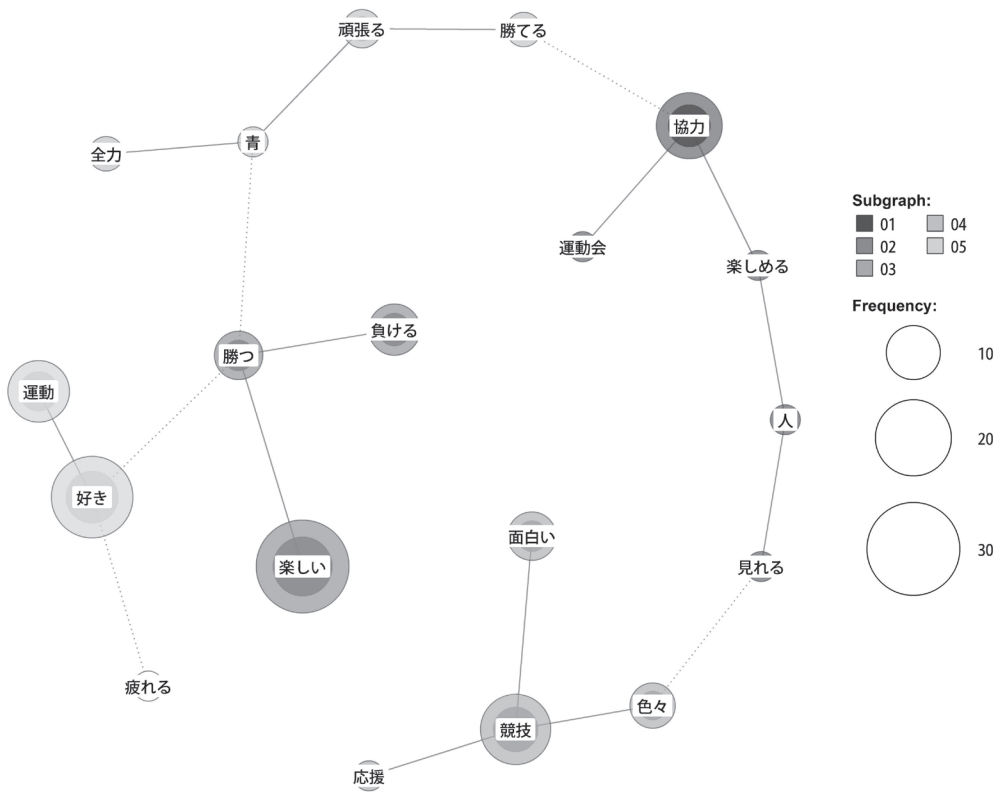


図4 調査時④の共起ネットワーク

表7 運動会に対する児童の意識（「好き」という気持ち）の要因（背景）を見取ることができた文脈

頻出語	調査時①	調査時②	調査時③	調査時④
「好き」	○「運動が好きだから」 ○「体を動かすのが好きだから」 △「運動はあまり好きではないから」	○「体を動かすのが好きだから」 ○「運動が好きだから」 ○「体育が好きだから」 □「好きだが疲れるから」	○「運動が好きだから」 ○「スポーツが好きだから」 ○「競い合うのは好きだから」 ○「運動会で協力するのが好きだから」	○「運動が好きだから」 ○「青と白どちらが勝つかドキドキするし、運動するのが好きだから」 □「好きだけど疲れるから」
「楽しい」	○「みんなに応援されたり自分が応援したりするのが楽しいから」	○「みんなと協力して楽しいから」 ○「勝負にこだわらず、協力する楽しさが学べるから」 ○「勝ったら楽しいから」 ○「競技も応援も楽しいから」	○「色々な競技があるから楽しい」 ○「競技が楽しいから」 ○「みんなを応援するのが楽しそうだから」 ○「応援合戦で声を出すのが楽しいから」 ○「運動会が楽しいから」	○「勝ったら楽しいから」 ○「とても楽しいし勝ったから」
「協力」	○「みんなと協力をして頑張れるから」 ○「色々な人と協力して楽しいから」	○「みんなと協力して競技をするから」 ○「みんなと協力して楽しいから」 ○「勝負にこだわらず、協力する楽しさが学べるから」	○「運動会で協力するのが好きだから」	○「みんなで協力して、楽しめるから」 ○「全校で協力して楽しい運動会にできたから」 ○「運動会でみんなと協力するのが好きだから」 ○「協力して勝ったから」 ○「みんなで協力してみんなで勝ったから」
「運動」	○「運動が好きだから」 ○「自分の運動がどれだけでできているのか試されるから」 ○「自分は運動が好きだから」 △「運動はあまり好きではないから」 △「運動をするのが苦手だから」	○「運動が好きだから」	○「運動が好きだから」 ○「青と白、どちらが勝つかドキドキするし、運動が大好きだから」	○「運動が好きだから」
「競技」	○「色々な競技が見れるから」 ○「色々な競技ができるから」 ○「色々な競技があるから」 ○「他の学年の競技などが見れるから」	○「色々な競技があるから」 ○「色々な競技ができるから」 ○「競技も応援も楽しいから」 ○「みんなと協力して競技をするから」 ○「競技が面白いから」	○「色々な競技があるから楽しい」 ○「色々な競技があって面白い」 ○「色々な競技ができるから」 ○「色々な競技を見るのが好きだから」 ○「競技が楽しいから」	○「色々な競技があるから」 ○「色々な競技が見れるから」 ○「色々な競技ができるから」 ○「色々な競技があって面白いから」 ○「全学年の競技を応援できるから」 ○「面白い競技があるから」

○：ポジティブなもの、△：ネガティブなもの、□：両者が混在しているもの

おわりに

本研究では、各学級のすべての調査時において「運動会に対する意識」が良好であったことが示された。また、運動会に対する意識（「好き」という気持ち）の要因（背景）については、その多くがポジティブなものであり、「運動が好きだから」、「みんなに応援されたり自分が応援したりが楽しい」、「みんなと協力をして頑張れるから」、「色々な競技があるから」、「競い合うのは好きだから」、「勝ったら楽しいから」など内容は多岐にわたり、さまざまあることが明らかになった。一方、運動会に対する児童の意識（「好き」という気持ち）の要因（背景）には、数は少なかったが、「運動はあまり好きではないから」といったネガティブなものがあることも明らかになった。

今後の課題

今後、他学年（第1学年～第4学年）の運動会に対する児童の意識を明らかにし、また、意識の要因（背景）を明らかにしていきたい。また、前述したように、数は少なかったが、ネガティブなものがあった。この視点からも実践研究をする必要がある。

参考文献

- 藤井佑介・森輝美（2017）：「児童の意識調査を通じた学校行事に関する一考察 - 運動会と修学旅行を中心として -」，『教育実践総合センター紀要』，長崎大学教育学部附属教育実践総合センター，第16号，pp. 145-153.
- 玉井康之・久々江貴志（1995）：「小規模校における学校行事と児童の意識 - 児童の興味から見た行事の意義 -」，『僻地教育研究』，北海道教育大学僻地教育研究施設，第49号，pp. 55-61.
- 文部科学省（2008）：『小学校学習指導要領解説 特別活動編』，東洋館出版社.
- 文部科学省（2018）：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』，東洋館出版社.